

岐阜県の森林・林業

森の下より

●特集●

「森と木との
ふれあいフェア2009」を開催

ご自由に
FREE
お持ち下さい

2009 December
No.675

12



岐阜県森林づくりキャラクター

山林協会ホームページ <http://www.g-forestry.or.jp>

社団法人 岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

森林のたより

12月号

No.

675



▲(開会式)テープカット

特集

「森と木とのふれあいフェア2009」を開催

10月24日(土)・25日(日)の両日、岐阜県庁前芝生広場にて、毎年恒例の「森と木とのふれあいフェア2009」を開催しました。両日とも好天に恵まれる中、イベント広場や各出展ブースで、それぞれ工夫をこらした催しが行われ、過去最高の人数を記録した来場者の皆様に、当フェアを満喫いただくことができました。



Contents

- 2 ●特集●「森と木とのふれあいフェア2009」を開催
- 4 高山市丹生川町 滑谷重和さん 農林水産大臣賞受賞
- 4 林野庁長官表彰(平成21年度山林種苗等生産事業功労者)
- 4 全苗連会長賞受賞(平成20年度全国苗畑品評会)
- 5 地域の林業振興に大きく貢献
- 5 森林基幹道『洞～数河線』開通
- 5 作業道開設研修の参加者募集
- 6 木材安定供給アクションプランの取り組み状況について
- 7 健全で豊かな森林づくりプロジェクト(30)
- 8 岐阜県立森林文化アカデミーの紹介(6)
- 8 森林文化における木造建築と『構造』の意義
- 9 山の歳時記(52) イチイ-II
- 10 研究コーナー 簡単に「間伐手遅れ林」とは言わないで
- 11 技術支援担当コーナー
- 11 県内におけるスギ構造材の乾燥実態について
- 12 林業グループコーナー 郡上リーフ・レディース
- 12 ～女性の林業への積極的参加で地域の活性化を～
- 13 普及コーナー 加茂農林高等学校林業体験学習
- 14 平成21年度 岐阜県緑化運動ポスターコンクール
- 14 入賞作品41点が決定しました
- 14 平成21年度森の名手・名人認定証伝達式が行われました
- 15 農林水産大臣賞受賞!
- 15 ～第25回民有林林道工事コンクール～
- 15 まだまだ募集中!「ぎふの木で内装木質化支援事業」(100棟募集)
- 16 山のおじゃまむし(221)
- 16 先が暗い、糞虫
- 17 市況
- 19 掲示板



表紙 ●森と木とのふれあいフェア(イスとりゲーム)
撮影者:中通 実

ステージイベント

初日の開会式では、主催者の森林政部長、来賓の森県議会農林委員長、共催者代表の矢口県森連会長からのあいさつの後、森と木のイベントにちなみ鉦を使いテープカットを行いました。

その後、当フェアの恒例となった岐阜総合学園高校太鼓部による勇壮な和太鼓演奏が披露され、ステージを幾重にも囲んだ来場者に感動を与えてくれました。また、みのかもアルプホルンクラブによる「アルプホルンコンサート」では、県産材で作った手作りのアルプホルンによる演奏が行われ、会場が癒しの音色に包まれました。そして、岐阜県健康キノコ振興会によ

力強い和太鼓の演奏に感動!

▶和太鼓演奏

▼アルプホルンコンサート



やさしい音色が会場中に響きました!

キノコ振興会によ

国豊かな海づくり大会ぎふ長良川大会一のマスコットキャラクタリーのヤマリンが来場し、あすはちゃんと一緒に「森づくりは海づくり」をテーマとして、来場者に大会開催PRをしました。

ヤマリンに会えて子供たちは大興奮!

▲ヤマリンが来場



チェーンソーによる迫力アートにみんなヒックリ!

▲チェーンソーアート



る「丸太早切り競争」にはペアで24組が参加し、優勝を目指した熱戦が繰り広げられました。2日目は、チェーンソーアートにびよる「チェーンソーアート」の迫力あるデモンスト

各出展ブース

当フェアには、テントブース及びフリースペースに43の団体に展示していただき、木製品やキットハウス、権茸などの展示販売、木のおもちゃ体験やクラフト教室、親子木工教室などの体験教室、高性能林業機械の実演展示等、趣向をこらしたブースが並びました。多くの来場者が、各ブー

普段みることのない林業機械に興味津々!

▲高性能林業機械の実演



このフェアのイベントや出展を通じ木材の良さや木を利用することの大切さ、森と木への理解をたくさんの方々の皆様に深めてもらうことができました。最後に当フェア開催にあたり、ステージイベントにご協力いただいた各団体の皆様、また、各ブースの出展者、そして当フェアにご協賛をいただいた関係団体の皆様には、改めてお礼申し上げます。

【県産材流通課 田中靖浩】

高山市丹生川町

滑谷重和さん

農林水産大臣賞受賞

高山市丹生川町の林家 滑谷重和さんが十一月二十日に東京都港区赤坂の石垣記念ホールで開催された第四十八回全国林業経営推奨行事において名誉ある「農林水産大臣賞」を受賞されました。



受賞された滑谷氏(左側)

滑谷さんは高山市丹生川町及び下呂市金山町にあわせて約77haの森林を所有し、高密度路網による低コスト林業に取り組んでいます。
スギ、ヒノキ林は、枝打等を積極的に実施し、長伐期多間伐施業による優良大径材生産を目指して施業を行っています。また、約19haのミズナラ

林では計画的な伐採更新によりシイタケ原木生産を行い、毎年の収益を確保しています。

さらに、平成十五年度から毎年、関西地方の学生を受け入れ、森林・林業体験を行うなど、森林の総合的利用にも積極的に取り組んでいます。

このような滑谷さんの取り組みが認められ、今回の受賞につながりました。今後の滑谷さんのより一層のご活躍を期待します。

【技術支援担当 下野俊彦】



滑谷氏所有山林の状況

林野庁長官表彰(平成21年度山林種苗等生産事業功労者) 全苗連会長賞受賞(平成20年度全国苗畑品評会)

10月21日にかごしま県民交流センター県民ホールで開催された第53回全苗連大会において、岐阜県内の森林づくりを縁の下で支えている苗木生産者の2人が、栄えある賞を受賞されました。
山林種苗生産に対する功労者としての表彰と苗木づくりにおける受賞です。

平成21年度山林種苗等生産事業功労者として、伊藤 勉さん(現各務原山林種苗組合 組合長)が林野庁長官より表彰されました。伊藤さんは、およそ34年の長きにわたり各務原山林種苗組合の組合長や岐阜県山林種苗協同組合の理事などを務め、その中で、積極的に機械化を進め、山林種苗の生産効率の拡大や生産者の労務軽減に尽力されたことが評価されての表彰となりました。

平成20年度全国苗畑品評会において間宮泰雄さん(加茂山林種苗組合)が、全苗連会長賞を受賞されました。

化学肥料を抑えめに、有機肥料のすき込みや苗木の根の発達を考えた土づくりを考えた間宮さんの苗畑で生産されている苗木は、その根の健全性と形質の良さが評価されての受賞となりました。

【林政課：井川原弘一】



機械メーカーと共同で考案した「苗木結束機」

考案した苗木結束機を使用することで、重労働であった出荷用苗木を結束する作業の労務と時間の大幅な削減ができた。



「間宮泰雄さんの苗畑」

苗木およそ60cm、根元径およそ9mmと形質の良い苗木を生産している出品苗畑。美濃加茂市加茂野町稲辺(ヒノキ 3年生 25a 31,000本)

岐阜県山林種苗協同組合では、スギ、ヒノキはもちろんケヤキ、クリ、コナラなどの広葉樹苗も取り扱っています。

地域の林業振興に大きく貢献

森林基幹道『洞』数河線』開通

平成二十二年十月二十日、森林基幹道『洞』数河線が全線開通し、完成記念式典が飛騨市宮川町洞地内池ヶ原湿原の駐車場で行われました。

開通式には、県関係者をはじめ地元県議会議員、飛騨市長、同市議会議員及び地元関係者など約八十人が出席しました。安全祈願祭の後、テープカット、「親線の道」と刻まれた記念碑の除幕、続いて出席者全員で林道をパレードし開通を祝いました。「洞」数河線は飛騨市古川町数河と同市宮川町塩屋を結ぶ幅員5.0m、延長25.2kmの森林基幹道として昭和六十二年に基幹林道の指定を受け、以降代行制度により県直営事業として開設を行ってきました。着工は終点の塩屋側が昭和六十二年度、起点の数河側が昭和六十二年度で、以来二十三年の歳月と二十九億五千万円余の事業費を投じ、平成二十二年十月に完成しました。開設に当たっては、天然記念物に指定されている「ミズバショウ、リュウキンカ」の群生地である池ヶ原湿原付近を通過するため、自然生態系に影響を及ぼさないように既設道を利用した線形、路面舗装による濁水対策、路面水の地下への誘導、無種子植生マット工による現地植生の回復を図るなどの配慮を行いました。

また、平成十六年、台風二十三号により、

宮川沿いの国道三百六十号やJR高山線は大きな災害を受け通行不能となりましたが、当林道が迂回路として活用され、沿線住民の生活を支えました。

森林・林業を取り巻く情勢は、木材価格の低迷、林業従事者の高齢化、減少などが進み、林業・林産業が主要な産業であります山村地域の生活は極めて厳しいものとなっております。こうした中、当林道は広大な林地の利用に向け間伐等、利用区域内の森林の適正な維持管理に寄与し、ひいては地域の林業振興に大きく貢献するものと期待されています。

【飛騨農林事務所 宇次原清吉】



林道の全線開通を祝いテープカットが行われました。

作業道開設研修の参加者募集

木材生産の低コスト化のため、林業機械による作業システムの構築とともに、基盤となる作業道、作業路の整備の重要性が高まっています。そこで、木材生産を目的とした低コストで安全な作業道等の整備を担う技術者を養成するため、研修会の受講者を募集します。

なお、安全な道づくりを進めるため、今後、研修修了者の設置を県営林事業等の入札参加資格や、一般造林事業の補助採択要件としますので、お知らせします。

1 受講区分 県内の林業事業者の作業道等の開設に携わる方で、次の区分により募集します。

1 設計 2 施工管理 3 重機運転

(注1) 受講者が①設計、②施工管理、③重機運転の複数の業務に携わる場合は、1回の受講で該当する区分すべての研修修了資格が得られます。また、区分に関わらず、すべてのカリキュラムを受講していただきます。

(注2) ③重機運転3トン以上の車両系建設機械(整地、運搬、積み込み用及び掘削用)の運転業務に必要な技能講習修了者に限ります。

2 募集定員 各回40名 (平成21年度は設計・施工管理・重機運転の区分の業務について募集します。また、応募者多数の場合は抽選とします。)

3 受講料 無料

4 研修期間 2日間 ※研修時間は9時～16時を予定

- 1回目…平成22年1月20日～21日(応募期限12月21日)
- 2回目…平成22年2月18日～19日(応募期限1月18日)
- 3回目…平成22年3月8日～9日(応募期限2月10日)

5 研修会場 岐阜県立森林文化アカデミー(美濃市曾代88番地)

6 申込方法

- 「受講申込書」に必要事項を記入のうえ、森林整備課にメール、FAX、又は郵送してください。
E-mail:c11515@pref.gifu.lg.jp FAX 058-278-2706
- 受講申込書は「岐阜県 森林整備課」のホームページからダウンロードできます。
<http://www.pref.gifu.lg.jp/contents/news/s115/s11515/>



研修会で木材生産を高めよう!



《座学…1.5日》

- 森林整備政策
- 作業道設計指針
- 路網計画
- 安全施工
- 林業機械
- リスク管理 等

《現地…0.5日》

- 施工上の留意事項
- 維持管理

受講者設置の適用方針

研修修了者(設計、施工管理、重機運転、先行伐採)を各1名以上設置することを入札又は補助採択の要件とします。

22年度から適用 ●県営林、公社事業の入札参加資格

23年度から適用 ●一般公共造林事業、路網整備課 事業の補助採択要件

(注1) 林業事業体に「施工管理」の研修修了者を1名以上設置すれば、他の技術者(設計、重機運転、先行伐採)に当該林業事業体以外の研修修了者(委託先、請負先)を従事させることにより、要件を満たすものとします。

(注2) 県営林、公社事業は「先行伐採」の研修修了者の設置は不要とします。

(注3) 研修は平成22年度以降も実施します。

お申し込み・お問い合わせ

〒500-8570 岐阜市数田南2-1-1 岐阜県林政部 森林整備課 整備担当
TEL 058-272-8489 FAX 058-278-2706
E-mail:c11515@pref.gifu.lg.jp

【森林整備課 村田重春】

揖斐農林事務所の主な取り組み事例を紹介します。

揖斐地域の森林の現状

揖斐地域の人工林は、年齢級のピークが県下の平均よりも10年ほど若い林況です。そのような状況の中で、揖斐郡森林組合では、平成19年度から「健全で豊かな森林づくりプロジェクト(以下森プロ)」に取り組み、補助事業を活用しながら、比較的小径木の林分でも利用間伐が実施できるように小型の高性能林業機械による木材生産を行っています。

事業体の育成

揖斐地域では、現在、素材生産事業体は少なく、森林組合以外ほとんどが個人の事業体です。そのような中で、今後、高性能林業機械を導入して素材生産を行いたいという建設業の事業体に対して、管内の林産事業地などでの間伐事業説明会の開催や、路網整備の方法、導入機械の機種選定、使用方法等の指導を行っています。

作業道の開設促進

事業地をまとめ、効率的な木材生産を行うためには作業道(トラック道)が必要です。作業道が出来ればその先には、森プロで培った経験を活かして支線の開設が出来ます。

そこで、管内の作業道開設の検討を進め、平成19年～21年での開設実績が3路線であったのに対し、平成22年度には10路線の開設を検討中です。

事業地の確保

森プロの経験から、事業地を確保するためには、施業の集約化が重要であり、集約化が見込めそうな地域から優先して取り組んでいます。

特に揖斐川町では「揖斐川町森林づくり推進会議」(市町村森林管理委員会)で、間伐モデル推進団地を設定し、町・森林組合・県が推進主体となって、各地域住民に働きかけて施業の集約化に取り組んでいます。その中でも、特に谷汲大洞地区と春日尾又谷地区については実績が期待できる状況となっています。

集約化の手法は、地元の森林所有者を中心とする組織を立ち上げ、説明会開催や打ち合わせを何度も行って、地元の方々と相談しながら進めています。そして、現在は、同意の得られた森林所有者の境界確認を実施しています。

揖斐地域では、高齢級のままだった森林が少ないために、集約化=利用間伐とはならず、せっかく集約化しても一部しか木材搬出に結びつかないこともあります。今のうちに森林をまとめて将来のビジョンを作ることにより、今後の木材搬出事業地を確保することができると信じて集約化の取り組みを進めています。



▲林産事業地の見学

【揖斐農林事務所 森川宣禎】



揖斐農林事務所

木材安定供給アクションプランの取り組み状況について

中濃農林事務所の主な取り組み事例を紹介します。

座談会で施業集約化を支援

木材生産(利用間伐)を効率的にすすめるためには、事業地の集約化が欠かせません。

そこで中濃森林組合では、県の施業プランナー研修会に職員を派遣してプランナー養成を図るとともに、管内3箇所で開催(関市板取地区7/7、同上之保地区9/29、美濃市御手洗地区10/15)して、合計約70ha程度のモデル団地づくりに取り組んでいます。美濃市神洞地区でも地元自治会と連携して座談会を開催(6/12、写真)し、施業集約化の意義、作業路整備の必要性などを訴えながら、数百ha規模の団地を作って、数年をかけて作業路開



▲美濃市神洞地区間伐座談会

設や利用間伐を実施していきます。また、森林境界が不明瞭で集約化の障害となっていますので、美濃市森林管理委員会(美濃市森の環境づくり推進委員会)や地元自治会の協力のもと、市内2地区で座談会・説明会(片知地区9/12、蕨生地区11/14)を開催しながら約200haの森林境界明確化に取り組んでいます。

中濃農林事務所では、こうした座談会で森林所有者へ普及啓発を図るなど取り組みを支援しています。

林業事業体の育成支援

平成19年度から関市内で健全で豊かな森林づくりプロジェクト(森プロ)を実施している中濃森プロJV(中濃森林組合と株式会社カネキ野村木材店の共同体)に対し、計画に沿った素材生産を行えるよう施業プラン作成や作業路開設などを支援しています。この森プロでは、現場から生産された間伐材を森林組合の市場で仕分けて製材工場に直送するなどして、木材安定供給と所有者還元を図っています。さらに同JVでは今年度から初めて美濃市内でも施業集約化と作業路開設、高性能林業機械を利用した低コスト木材生産システムを実施しています。農林事務所主催で11/18には林業事業体をはじめ、市民も対象とした研修会を開催して、取り組みを広くPRしていきます。

また10/20には、管内の森林技術者と福井県で利用間伐事業を展開している「ネイチャー6、フォレストアメニティ研究所」を訪ね、作業路開設やミニ列状間伐の手法などを学びました。木材価格が低迷する中、こうしたソフトの支援を通じ、木材安定供給に努めていきます。

【中濃農林事務所 藤下定幸】



中濃農林事務所

健全で豊かな森林づくりプロジェクト 30

本誌2008年12月号で、『森林環境の保全と木材生産は決して相反するものではなく……』とご紹介したことがあります。

今月号では、このテーマについて学ぶ第7回地域森林管理・経緯に関する研修会についてレポートする予定でしたが、残念ながら台風18号の襲来により中止となったため、今月号では研修会で学んで欲しかったことのうち、特に道づくりを中心にご紹介したいと思います。

日本林業だけが特殊なのか？

日本は地形が急峻だから道が造れないという話がありますが、今回講師をお願いしていた東京大学の酒井教授の著書(作業道ゼミナール)によると、日本に負けず劣らず急峻なオーストリアの林内路網は83.6m/haであり、木材生産の基盤が既に出来上がっているそうです。

もちろん道はむやみに開設したのではなく、天然更新や森林保護と結びつけて時間と空間、そして予算を上手く利用してきました。

日本の林業はどうでしょうか。

森林資源がようやく利用可能な状況となり、まさにこれからこうした議論と行動が本格化していくものと思われれますが、前述の事例でも明らかのように、先進国の林業に追いつくためには、『自然についてもっと考える林業』を徹底しなければならないように思われます。

林業経営の基盤は道づくりから

現在、道づくりは〇〇式と称される手法がもてはやされており、それぞれ百花繚乱の様相を呈しています。

しかし一様に求められているのは低コストでありながら壊れにくいという経済面と環境面を両立する道づくりです。その代表例として挙げられるのが、四万十式と呼ばれる表土を盛土材量として使う道の作り方です。

表土や伐根等の有機物を路体に混ぜ込むことについては議論の分かれるところですが、表土ブロック積み工法は、早期緑化の観点で見れば自然の持つ緑化機能を上手く引き出している好例と言えます。

一方、今回の研修会場となった飛騨高山森林組合の道づくりは、極めてオーソドックスな手法です。四万十式とは異なり、路体は無機質の土石で構築し、盛土内の立木は土羽尻まで伐採します。その代わりしっかりと盛土を転圧、加えて土羽尻は地山へのスリ付けを徹底し、常に堅固な道づくりを心掛けています。

また作業効率を追求した結果、0.45サイズの高性能林業機械を導入した作業システムを構築しており、このため幅員は3.6mが基本ですが、伐開幅は傾斜に応じて

6~8mと出来る限り狭くしています。

道づくりのコストを減らす秘密

そして、飛騨高山森林組合の開設する道を決定的に特徴づけているのは、道づくりに関する方針です。

飛騨高山森林組合では、丸太組は一切施工していません。もちろん実力が無いからではなく、「丸太組はもったいない」と考えているからです。

では一体、どのように対処しているのかと言えば、丸太組を施工しなくても良い道のレイアウトを第一に選択すること。確かに無理のない地形を選んで線形を決定すれば、将来に亘って自然に与える負荷を限りなく減らすことが可能となります。道づくりにおいても土砂をむやみに移動させたり、必要以上に伐開することは無くなります。

さらに言えば、まず路網配置に関する全体設計の方針を明確にして、場当たりの線形を変更しなければ、自ずと道づくりの低コスト化が図られていくのではないのでしょうか。これは準備段階(施業地の面的集約化)で努力しているからこそ可能なコスト縮減の秘密とも言えます。

森林技術者の腕の見せどころ

道の支障木を伐採した後に回復する枝の張り具合や、道を開設したことによる新たな雨水等の行方など、施業後の森林の姿を一つひとつ具体的にイメージしながら、経済と環境が折り合う境界線上で林業経営していけるように施業することが、今の森林技術者に最も求められていることであり、逆に言えば、これ以上ない腕の見せどころとも言えます。

将来的な維持管理を含め、林業経営の一部を森林自身に委ねる仕掛けが自身の現場には考慮されているか。『自然を力で押さえ込む』林業はもはや時代遅れになりつつあります。



ヘアピンカーブ内側の残存木

【県産材流通課 中村幹広】

森林文化における 木造建築と『構造』の意義

岐阜県立森林文化アカデミー

小原 勝彦

●はじめに

環境問題のひとつである地球温暖化を防止するために、二酸化炭素排出量の削減に様々な取り組みが試みられています。木造建築での取り組みを考えていきたいと思えます。材料の製造に要する炭素排出量では、製材は炭素排出量よりも固定量(図中マイナス)の方が遙かに多いことが分かります。また、建築構造種類別の炭素排出量では、炭素の固定量が放出量よりも多いため、結果的に木造建築は炭素を固定化していると言えます。RC造やS造などは、多くの炭素を放出している環境負荷の高い構造であると言えます。

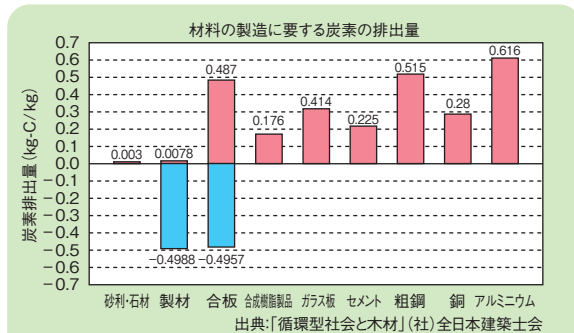


図1 材料の製造に要する炭素排出量

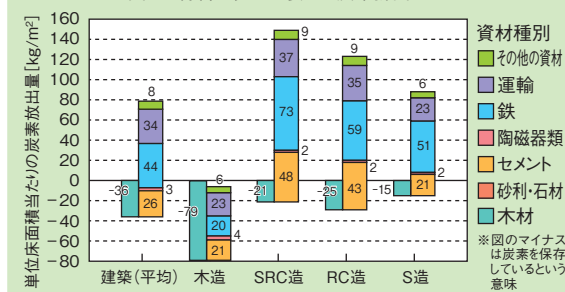


図2 構造別炭素の排出量 (出典:前図と同)

●木造建築はもう一つの森林

延べ床面積40坪(約120㎡)程度の一般的な木造住宅では、約20㎡の木材を使用しています。この時、木造住宅1棟当たり5~6tf程度の炭素が固定されていると見積もることができます。この住宅が1ha(100m×100m)の住宅地に20棟建てられていると、400㎡の木材を保管していることになります。この木材量は、年間成長量5㎡/haの人工林に換算すると、植林してから80年経過した森林に相当する量になります。

また、この住宅地では、道路などを除くと、1棟あたりの敷地面積は約300㎡となります。建築面積70㎡の建物では、広い庭も有する宅地と考えられます。すなわち、木造住宅密集地であれば、その木材保管量は相当量になります。このような意味では、まさに、木造住宅の町並みは「もう一つの森林」といえます。

●木造建築を長持ちさせるために

この「森林」はできる限り長く維持することにより、炭素の固定が保たれます。つまり、数多くの木造建築を建設し、できるだけ長持ちさせることが地球環境にとって非常に望ましいということになります。

木造建築を長持ちさせるための一つの考え方として、ある大きさの地震で倒壊してしまわないように、高い耐震性能を有する木造建築にすることがあります。

●耐震性能の高い木造建築は高い?

高い耐震性能の木造建築は、価格が高いという誤解があるように感じます。例えば、一間のテラス窓は、普通のサッシで3~4万円程度、複層ガラス入りサッシで、10万円程度です。この状態で強さはほぼ0kgfです。ここに構造用合板(12mm厚)×4枚で耐力壁(地震力に抵抗する壁)をつくると、約4,000円です。この状態で約1,000kgfの地震力に抵抗することができます。耐力壁だけで耐震性能が決まりませんが、高い耐震性能を有する建物は、必ずしも価格が高いわけではありません。

●アカデミーの学舎も巨大な「森林」

森林文化アカデミーの校舎は、環境負荷の少ない木造建築です。木材保管量で考えると、巨大な「森林」といえます。地球環境のために、エコな学舎で、エコな木造建築を、特に人命を守ることができる『構造』を一緒に楽しく学びましょう。尚、森林文化アカデミーでは12/7~12/18にオープンキャンパスが開催されます。



地球環境のためにエコな木造建築を学ぼう!



▲森林文化アカデミーの校舎





イチイ Ⅱ

樹木医・全国森林インストラクター会 理事 川尻 秀樹

▼高山市高根町日和田地区にあるイチイによる
一位森八幡神社(国指定天然記念物)



前回に引き続き、岐阜県の木、イチイについて記します。
イチイは天皇家などが儀式の時に身につける「笏」をつくる樹木としても有名で、昭和天皇や今上天皇が即位された際にも、高山市一之宮町の位山(1,529m)から天然イチイを伐り出して、長さ一尺三寸五分、幅一寸五分〜二寸三分、厚さ一寸三分のものが献上されました。もともと笏は「コツ」と読みましたが、「骨」に通じて縁起が悪いとされ、笏の長さ一尺にかけて「シヤク」と呼ぶようになったとされます。
『日本書紀』には、仁徳天皇の時代、飛騨の国の両面宿禰が天皇の命令に従わず朝廷に逆らったため、難波根子武振熊に討伐されたことが記されています。両面宿禰は前後二つの顔、前後両面に両手足があり、四本の手で同時に弓矢を使いこなす鬼神で、伝説によると降伏の標として位山のイチイ

で笏をつくり、仁徳天皇に献上したとされます。そして313年、仁徳天皇はイチイに笏をつくる高貴な木として「正一位」を授けたと言ひ伝えられ、これが名前の由来とされています。

笏は推古天皇の時代に習慣づけられ、職事官に正式に把笏が命じられたのは、養老三年(719年)です。当時の貴族で五位以上の者は象牙製の牙笏、六位以下は木で作られた木笏を用い、慣例としてイチイを使用ようになったのは「延喜式(927年)」からで、笏は律令制度の「尺度」つまり「基準」とされたのです。

イチイはサカキやヒサカキが自生しない東北部や北海道で、その代用品として御玉串など神事に用いられ、神社の境内に植えられました。

アイヌの人々はイチイを弓になる木を意味する「クネニ」と呼んで弓材とし、縄文遺跡からもイチイの丸木弓が発掘されています。イチイ材は強靱で粘りがあり、雪や雨に曝されても狂わず折れにくいので、アイヌ民族だけでなく、西洋でも古くから用いられていました。1991年にオーストラリアとイタリアの国境アルプスで発見された5300年前の氷つきのミイラ「アイスマン」も、イチイの弓と矢、銅の短剣と何種類かの木を持っていた。長距離射撃の得意としたイングランドの弓隊はイチイの弓を使っていたため、ヨーロッパ諸国に恐れられていました。イギリスとフランスの間で続いた「百年戦争(1338-1453年)」では、もしもイチイが存在しなかったらエドワード三世率いるイギリスはフ

ランスに勝てなかったと言われます。特に1346年のクレシーの戦いでは、本来優勢であったはずのフランス軍が180m先から飛んでくるイギリス軍長弓隊の矢に敗退した話は有名です。また、イギリスのリチャード一世が弓矢の名手ロビン・フッドに下賜したのはイチイの弓と言われ、ロビン・フッドはシャードの森に生え、堅くしなりの強いヨーロッパのイチイの弓を愛用しました。そして戦いで傷ついた時、リトルジョンに、矢の落ちたところに埋葬してくれ。“と頼み放つと、イチイの根元に矢がささり、死後に遺言通りに遺体をイチイの木の下に埋葬したそうです。実際にイチイ材から弓をつくる場合は、

芯材と辺材の両方が入るように木取りしたそう、これは弦を引き絞ると辺材が伸びて芯材が縮む、つまり柔軟な辺材が芯材を破壊から護る役目を果たし、弦を放すと真つすぐに戻るためイチイが用いられたのです。飛騨の名物一刀彫に使われるイチイ材ですが、高山市高根町日和田地区にある一位森八幡神社社叢(国指定天然記念物)など限られたところで見られなくなったのです。

▼社叢のイチイの幹



間伐手遅れ林

最近、「間伐手遅れ林」という言葉をよく見聞します。間伐が行われず、過密な状態が長く続いたために、枝が枯れ上がったヒヨロヒヨロの木ばかりになった林(写真1)を指す言葉です。この状態が様々な森林機能の発揮に良くないことは、誰の目にも明らかです。そのため、「間伐手遅れ林の間伐を進めよう」が合言葉のようになっていきます。

しかし、これはおかしなことです。「手遅れ」というのは、もう何をしてもダメな、いかなれば医者がさじを投げざるを得ないような状態のことです。良くなる見込みがないのに間伐する、こんなことはあり得ないでしょう。本当に「間伐手遅れ」なら、間伐に変わる何か別の対処が必要です。「手遅れ」かどうかの判断は、とても重要なことなのです。



▲写真1 過密状態にあるスギ林



簡単に「間伐手遅れ林」とは言わないで

本当の「手遅れ」とは

間伐をしていない人工林の木がヒヨロヒヨロになるのは、枝が枯れ上がって樹冠が小さい(着葉量が少ない)ことが原因です。この状態を解消する林業技術が間伐です。すなわち、「間伐手遅れ」とは、間伐しても樹冠が大きくなる(着葉量が増えない)ことを意味します。樹冠は、枝が伸びることによって大きくなります。ただ、今ある枝が伸びるだけでは高が知れています。写真2を見れば、このことが感覚的にわかると思います。過密林では、枝の数が少なすぎるのです。そこで重要になるのは、大元になる枝の数が増える樹高成長です。

間伐すると枝の枯れ上がりを抑えられるので、その後は樹高成長した分だけ樹冠長が大きくなり、それだけ枝が増えます。したがって、間伐後に樹冠が大きくなるかどうかは、間伐手遅れでないかどうかは、樹高成長にかかっているのです。樹木の樹高成長に頭打ちがあるな

森林研究所 ● 横井秀一



▲写真2 間伐直後のヒノキ林(元過密林分)

で、どれだけ樹高の伸び代が残っているかが決め手になるわけです。

「手遅れ」判定は将来の樹冠長で

もう少し具体的に言うと、現在の樹高と将来の樹高とで決まる将来の樹冠長が、目標とする幹直径を得るのに十分であれば、「間伐手遅れ」ではないということです。図1は、ヒノキ林の平均樹冠長と平均胸高直径の関係です。これ

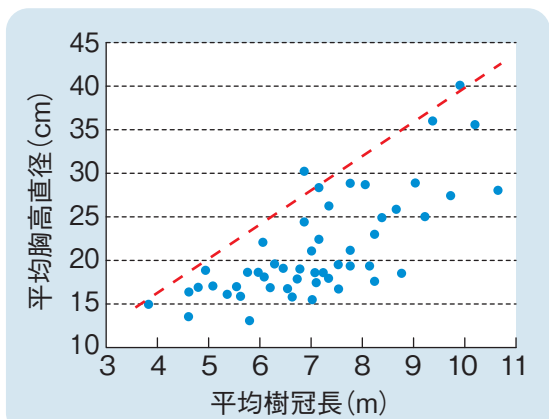


図1 ヒノキ林の樹冠長と胸高直径の関係

より上側に点が来ないように引いた点線は、樹冠長に対する胸高直径の最大値です。例えば、胸高直径30cmが目標なら、7.5m以上の樹冠長が期待できるときは、目標達成の可能性があるので間伐手遅れではありません。ただし、樹冠があまりにも小さいとき、間伐による直径成長の促進がどのくらい見込めるかを示すデータがまだありません。また、間伐をすることでかえって気象害の危険性が高くなるために、手遅れと判断せざるをえない場合もあると考えられます。今、これらに関する調査を進めているところです。「間伐手遅れ林」とは、絶望的な言葉です。手遅れかどうかの判断がきちんとできないうちは、使わないようにするのが無難だと思います。

県内におけるスギ構造材の乾燥実態について

木造住宅の建築においては、プレカット工法の普及により工期の短縮、品質・性能重視といったニーズが高まり、寸法精度の高い乾燥材の需要が増加しています。このため、木材乾燥工場においては、より一層の乾燥技術の向上を図り、工務店、消費者の要求に応えていく必要があります。そこで県内の木材乾燥工場における乾燥の実態調査を行いました。

調査内容

今回は、県内のスギ主体の人工乾燥を行っている工場20社に聞き取り調査を行いました。調査内容は、①木材乾燥機(タイプ)、②乾燥技術者数、③乾燥スケジュール(樹種別・構造材・板類)、④乾燥後の養生期間、⑤乾燥製品の水分計測としました。

調査結果

調査した20社の導入台数は、計64台(中・高温タイプ53台、その他11台)でした。熱源は、多い順に木屑焚きボイラー(22台)、重油式(13台)、重油+木屑焚き併用(19台)、灯油式(6台)、電気式(4台)という結果でした。木屑焚きボイラーは、製材端材等を熱源とするため乾燥コストが安価ですが、重油式と比較すると機械本体が高額なため導入が厳しいとの回答もありました。

木材乾燥機の操作者は、ほとんどの工場は1名であり、他の業務と兼ねて操作を行っていました。乾燥技術者の年齢は、30代から50代が最も多く、経験年数では10~15年程度が多く見られました。乾燥スケジュールは、使用する部材によつて違いますが、基本は乾燥機メーカーが作成したもので実施し、経験を積み重ねた上で、温度、湿度、時間を変えるなど各工場で工夫し木材乾燥に取り組んでいます。

乾燥後の養生(乾燥後に一定期間放置し大気と馴染ませる)期間は、屋内倉庫等で1~2週間程度が多く、中には1~2ヶ月ぐらい行うところもありました。乾燥製品の水分計測は、携帯型含水率計を使用し、乾

燥直後又は仕上げ直後に実施しているところが多くあり、測定本数(全量又は抽出)は工場によつてバラツキが見られました。

スギの乾燥の調査を終えて

調査結果では、高温蒸気式の導入割合が80%を占めていましたが、燃料価格の上昇の影響により高温乾燥から中温乾燥へ切り替えた事例や人工乾燥から天然乾燥へ切り替えた事例、人工乾燥と天然乾燥を組み合わせた乾燥への切替え事例が見られました。養生については、納期の問題から十分な養生期間を取る前に出荷してしまうケースが見られました。

特にスギは、初期含水率にバラツキがあるため、人工乾燥終了直後は、水分傾斜(木材内部の水分分布)が存在します。水分傾斜は、養生によつて表面が水分を吸収したり、中心部の水分が表面付近に移動することによつて徐々に解消されます。養生が十分のままだと材の中心部の含水率が高いままの状態となり、不均一な品質となり寸法に狂いが生じる場合があります。

水分計測に関する生産現場の問題点として高周波式携帯型含水率計の数値を過信しているところが多く見られました。含水率傾斜のある材を携帯型含水率計で測る場合には、実際の含水率により低めに表示されます。これは、測定範囲が表面から4cm程度の乾いた部分に限られるためであり、実際の含水率と表示値の直線関係をとって補正することが望ましいと言えます。また、スギ生材の含水率は、バラツキが大きいため、乾燥前に重量や赤心、黒心等によつて選別

することで均一な乾燥を行うことが期待できますが、人手不足や納期の問題から導入工場は限られており、改善の余地があることが分かりました。

各乾燥方法には、それぞれ長所・短所があります。乾燥コストや乾燥時間、各乾燥方法の特徴を考え、乾燥方法を選択する必要があります。

今後、県内の木材乾燥技術が少しでも向上するように関係機関と連携を図りながら支援、情報提供できればと考えています。最後に本調査にご協力いただいた関係者各位に感謝申し上げます。

《参考》スギ心持ち柱材のための各種乾燥方法の特徴

乾燥方式	温度(℃)	乾燥日数の目安(日)	概要	特徴
天然乾燥	常温	—	屋外や屋内で空気にさらし自然乾燥させる	割れやすい。広い土地が必要。
蒸気式乾燥(中温)	70~80	14	空気の温度・湿度を調整できる装置の中で強制的に乾燥させる	標準的。各種燃料が使える。汎用性が高い。
蒸気式乾燥(高温)	100~120	5		乾燥が早い。設備の耐久性に不安。材色変化が生じやすい。

注)寸法:10.5cm仕上げ、含水率20%以下 乾燥材生産の技術マニュアルより



郡上リーフ・レディース

～女性の林業への積極的参加で地域の活性化を～

設立 平成10年
会員数 16名
代表 原 富美子

郡上リーフ・レディースは、郡上市全域を活動エリアとする林業女性グループです。森林・林業の技術・知識を習得し、女性の林業への積極的な参加を通して地域の活性化を図ることを目的とし、平成十年に発足しました。現在、八幡、白鳥、美並、明宝在住の十六名のメンバーにより、地域の小学校等でのネイチャークラフト指導、地域イベントでのブース出展などを主体とした活動を行っています。行事も多く、皆が忙しい時間を割いての活動になりますので、「無理をせず、無理を言わず」、「自分たちが楽しむ」ことをいつも心掛けています。



● 第十三回林業女性グループ交流会

7月3～4日

県下の林業女性グループを招き、郡上市明宝で開催。岐阜薬科大学田中俊弘特命教授による講演、森林観察等の現地研修を行いました。



● 小学校でのネイチャークラフト指導

通年

グループの地域貢献活動のメインとなる取り組みで、現在は、明宝小学校において年間14回程度の教室を指導しています。

● **最近の活動**
 今年度は、行事の当たり年で、これまでに、小学校でのネイチャークラフト指



● 他地域林業女性グループとの交流・視察会

11月5日

揖斐地域林業女性グループ「ニューさかレディース」（揖斐川町坂内）と交流。大先輩から沢山の知恵とパワーをいただきました。



● 郡上市長面談

8月21日

いつも活動を支援していただく郡上市長さんと面談。日頃の活動状況報告、意見交換を行いました。

導、林業女性グループ交流会開催、郡上市長との面談、各種イベントへの出展、揖斐地域林業女性グループとの交流・視察研修など行ってきました。

● **今後の取り組み**
 これまで私たちのグループには拠点となる施設がなく、その必要性を強く感じていたところですが、この度、市の計らいにより明宝地区にある旧公民館の一室をお借りできることになりました。その場所は、喫茶店として利用されていたこともあり、私たちの作品のギャラリーとしても使えるものと期待しています。この冬は、メンバーと相談し、施設の整備に取り組みたいと思っています。完成の暁には、是非、お立ち寄りいただきたいと思います。

● **おわりに**
 先日、交流会でお会いした「ニューさかレディース」の大先輩方が、「最近では、足腰が弱ってしまつて」などご様子しながらも、自分ができることを受け持ち、周りもそれを期待し、それぞれが持ち味を活かし活動する姿に心を打たれました。私たちにもできることがまだまだいっぱいあります。これからも新しいことにどんどんチャレンジし、メンバーそれぞれが自分の得意分野を活かせるような活動を続けていきたいと思っています。

郡上リーフ・レディース
 代表 原 富美子



加茂農林高等学校林業体験学習

可茂農林事務所 林業普及指導員 ●安江純一

県では、農林高校(県内4校)の生徒を対象に、地域の森林組合や林業会社の協力を得て、「農林高校生林業就業促進事業」を平成17年度から実施しています。可茂地区では農林事務所と県立加茂農林高等学校が協働し、10月26日(月)に林業工学科1年生40名が体験学習を行いました。台風の影響で朝から1日雨天でしたが、午後は小雨になり、現場作業の見学と体験も無事できました。

事業の概要

農

林高校では2年生から専門科目が開始されるため、1年生が林業・木材産業について幅広く触れて学ぶ機会となる企画にしています。

白川町三川地区では、白川町林業センターを拠点として、林業の現場から木材の流通加工、木造建築、木材のリサイクルまで1日で網羅することができますので、例年この地区で開催しています。

東濃ひのき製品流通協同組合

木

材加工施設については協同組合の渡邊専務が講師です。森林資源循環システムである森林バイオマス発電所の見学に先立ち、林業センター研修室で木材団地の説明や地球温暖化防止に役立つ発電の仕組みを、パワーポイントの画像で学びました。発電所の燃料チップ投入、ボイラーの燃えている様子、発電所の蒸気を利用した木材乾燥施設などを見学

しましたが、中でも端材で生産する木質ペレット製造施設は興味深い様子でした。



▲林業センターでの講義

東濃ヒノキ白川市場協同組合

市

場では近年の木材流通や価格、入札の方法など安江市場長から聞き入りました。2日後の28日が市日であり、搬入された原木が仕分けされているところでした。天然のヒノキもありましたが、この日の目玉商品はモミで、長さ4メートルの

元玉1本で材積が2立米を超える大木。20から30万円になるとのコメントに皆驚いていました。

森林施業(間伐)現場

昼

食の後、白川町黒川で森林組合が実施している健全で豊かな森林づくりプロジェクトの団地へバスで移動して間伐作業を見学しました。

森林組合の澤田主任の案内で、グラップル、フォワーダを使用した間伐材搬出作業を見学し、機械の操作を交代で体験しました。現場での実演と機械操作を指導してくれたのは森林組合の福田技術員と地元道の道木林業の加藤技術員で、両名とも加茂農林高校を卒業した先輩です。樹齢50年ほどのヒノキの間伐では、うまくねらった方向に木が倒れると、生徒から歓声が上がりました。グラップル、フォワーダなど機械操作の体験では、なかなか思うようにいかないようでしたが、一生懸命に挑戦していました。



▲フォワーダの操作体験

おわりに

今

回は、20代の若い先輩が活躍する姿を見られたからか、生徒たちは、「こういう仕事もおもしろそうだ」と、興味を持ってくれたようでした。近年は林業

木材関係の求人が少なく、希望者がいても機械・金属関係への就職が多くなっているとのこと。一方で、少数ですが、林業工学科から森林文化アカデミーへ進み、就職先を確保しているようです。厳しい状況ではありますが、今後引き続き、行政と学校で協働して就業促進に取り組みたいと思います。

表1 平成20年度林業工学科就職状況

職種	農産加工	木製品・パルプ	機械・金属	自衛隊	合計
人数	2	4	13	1	20

表2 森林文化アカデミーへの進学者数

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
人数	2	2	1

入賞作品41点が決定しました

岐阜県では毎年、緑化運動の一環として広く県民の皆様に緑化についての普及啓発を図るため、県内の児童・生徒を対象に、森林の造成(植樹・育樹)、環境緑化についての意欲の高揚をテーマとした「岐阜県緑化運動ポスターコンクール」を実施しています。(主催：岐阜県/後援：岐阜県教育委員会、(社)岐阜県緑化推進委員会)

今年度もコンクールを実施したところ、小学生から高校生までの1,609人の参加があり、審査の結果、41点の入賞作品が決定しました。 【林政課 佐野 守】



【主な入賞者のみなさん(敬称略)】

小学校低学年(1~3年)の部

- 最優秀 小島 怜(可児市立旭小学校1年)
- 最優秀 二神乃々佳(大垣市立小野小学校2年)
- 優秀 山田 杏実(大垣市立興文小学校1年)
- 優秀 木村 朋香(瑞浪市立土岐小学校3年)

小学校高学年(4~6年)の部

- 最優秀 隅田 彩佳(岐阜市立本荘小学校4年)
- 最優秀 安永 萌絵(岐阜市立城西小学校6年)
- 優秀 廣瀬 愛理(各務原市立中央小学校6年)
- 優秀 大内 知香(多治見市立根本小学校6年)

中学校の部

- 最優秀 中山 真絢(瑞穂市立棠南中学校3年)
- 優秀 草深 有紀(大垣市立興文中学校2年)
- 優秀 室田 桃果(川辺町立川辺中学校1年)

高等学校の部

- 最優秀 丸山 信太(県立多治見工業高等学校1年)
- 優秀 野原 惇(県立岐阜総合学園高等学校3年)
- 優秀 西尾 有加(県立多治見工業高等学校3年)



小学校低学年の部 最優秀
小島 怜さんの作品
題「みどりがいっぱい いきものがいっぱい」



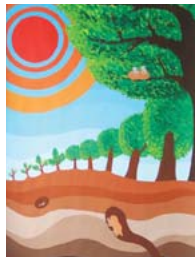
小学校低学年の部 最優秀
二神乃々佳さんの作品
題「緑の緑化運動」



小学校高学年の部 最優秀
隅田彩佳さんの作品
題「植 樹」



小学校高学年の部 最優秀
安永萌絵さんの作品
題「緑を大切に」



中学校の部 最優秀
中山真絢さんの作品
題「植 樹」



高等学校の部 最優秀
丸山信太さんの作品
題「平成21年度岐阜県緑化運動ポスター」

平成21年度森の名手・名人認定証伝達式が行われました

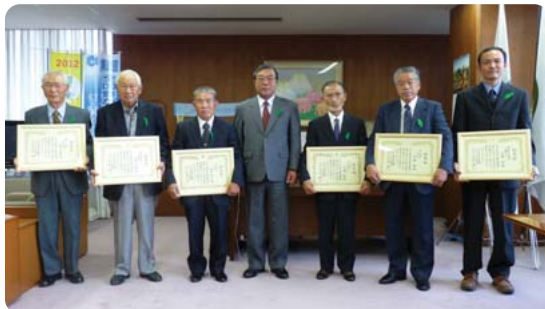
平成21年度森の名手・名人に認定された県内の6名に対し、(社)国土緑化推進機構から届いた認定証が10月29日、(社)岐阜県緑化推進委員会会長の早川捷也岐阜県議会議長から伝達されました。

【今年度森の名手・名人に認定されたみなさん】

- ◆森づくり部門(苗木生産) 郡上市白鳥町 田中 正利さん
- ◆森の恵み部門(山菜採り) 郡上市白鳥町 上平 活良さん
- ◆加工部門(宮大工) 岐阜市芥見 堀部 純行さん
- ◆加工部門(チェーンソーカービング) 郡上市白鳥町 平野 守さん
- ◆加工部門(宮大工) 中津川市付知町 伊藤 博さん
- ◆森の伝承・文化部門(森林ガイド) 飛騨市神岡町 石橋 智さん



▲早川会長からお祝いの言葉を受けられるみなさん



▲左から田中さん、上平さん、堀部さん、早川会長、平野さん、伊藤さん、石橋さん

「森の名手・名人」とは

森を守り、育て、その恵みを活かして持続的に循環させていくことの重要性を広く訴え、社会一般が更に森林と向き合っていく気運を醸成することを目的に、「もりのくに・にっぽん運動」が平成14年11月に開始されました。(社)国土緑化推進機構ではこの運動のリーディングプロジェクトとして、平成14年以降、森や山に関わる樵(きこり)、マタギ、炭焼きなどの生業において、すぐれた技を極め、他の模範となっている達人を「森の名手・名人」として選定しています。「森づくり」「森の恵み」「加工」「森の伝承・文化」の4部門を設け、毎年全国で100人(本年度93人)程度を選定しています。

平成21年度
現在の認定状況

- 全国の認定者数…776名
- 岐阜県の認定者数… 33名
(愛媛県の33名と並んで全国第1位の認定者数)

農林水産大臣賞受賞!

第25回民有林林道工事コンクール 郡上市明宝 西脇建設(株)

(社)日本治山治水協会・日本林道協会共催の平成21年度治山・林道コンクール「民有林林道工事コンクール」において、二間手〜水沢上線(第1工区)林道開設工事を施工した郡上市明宝 西脇建設(株)が「農林水産大臣賞」(最優秀賞)を受賞されました。

この工事は施工延長250mで、平成19年6月5日に着工し、平成20年8月15日に完成しました。

工事箇所は急峻な地形のため、限られた作業スペースでの施工でしたが、



表彰式(郡上市明宝 西脇建設株式会社)

【治山・林道コンクール各部門受賞者】

林道維持管理コンクール ★日本林道協会長賞★

◆林道桐谷〜下り谷線……………高山市

林道木材使用工事コンクール ★日本林道協会長賞★

◆鎌辺〜明山線林道開設工事…郡上市建設部 末武大吉

治山工事コンクール ★(社)日本治山治水協会長賞★

◆郡上市新宮地内治山工事……………(株)木越組

治山木材使用工事コンクール ★(社)日本治山治水協会長賞★

◆揖斐川町坂内広瀬川尻地内治山工事……………揖斐農林事務所 田中博文

【森林整備課 村瀬充広】

コンクリート構造物施工時の足場設置などの安全対策を徹底し、事故無く完成しました。また、地山掘削や床掘に伴う土砂流出対策を適切に実施し、周辺の自然環境に対する影響を最小限としました。
林道本体の施工技術、施工管理に加え、林地保全、施工条件等に関する様々な取り組みが評価された結果、受賞の運びとなりました。
また次の方々についても各部門において優秀であると認められ、受賞されました。

まだまだ募集中!

増改築やリフォームするなら! 県産内装材はいかがですか?

100棟募集

「ぎふの木で内装木質化支援事業」

岐阜の山の森林整備を進め、地球温暖化を抑制する循環型の社会づくりのためには、木材が最も多く使用される住宅分野で、岐阜の木を積極的に、そして有効に使っていくことが必要です。柱や梁などの角材のみならず、板材など幅広い分野での需要を拡大することは、丸太を有効活用することになり、木材産業が活性化し、林業全体の支援につながります!ぜひ御検討ください。



●支援事業の流れ



1㎡あたり 2,000円の助成 (最大10万円)
※対象部分は、居住スペースから見える部分に限ります。



※詳しい条件やお申し込み方法については、☎058-272-8486まで、または県産材流通課のホームページをご覧ください。【県産材流通課 長沼慶拓】



山のおじまむし



— 先が暗い、糞虫 — 【第221回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

10月10日からの3連休は絶好の行楽日和であった。しかし、私は雨が降るのを願っていた。それは、採集に出かける予定であったのが、岐阜県レッドデータブックの整理におわれ、自宅で仕事をしていたからである。「今だったらあそこへ行けば、あのゾウムシが採れる」などと思うと集中力が欠け、作業がはかどらなかつた。しかし、締切日という魔物に追われ必死に作業をした。午後4時過ぎ、絶滅危惧Ⅰ類の整理にとりかかった。ここにランク付けされているのは絶滅寸前のきわめて貴重な種ばかりだ。まず手をつけたのが、一般に糞虫(くそむし)と呼ばれている5種類のコガネムシ科の甲虫だ。これらはいずれも動物の糞を食べている変わった昆虫である。「糞虫か。懐かしいなー」と思いながら、仕事を始めた。しかし、朝からの連続作業。さすがに疲れてきた。気分転換にテレビを見ようとスイッチを入れた。映し出された画面は、大映しにされた糞虫の絵。あれ?

× × × ×

その絵は1cmに満たない小さな糞虫を大きく描いてあった。糞虫独特の頭の角、大きな口、長い後ろ足。カメラでは映し出せないようなところまで克明に描写してあった。「これはすごい」私はテレビの前に釘付けになった。何枚か絵がでてきたがすべて糞虫。どれも見ごたえのあるものばかりだった。次に画家の姿が映った。モデル?の小さな糞虫をじっと見つめている。そして細い線を1本入れた。そして、またモデルとにらめっこ。そして、今度は小さな点刻を1個入れる。この繰り返しであった。その画家の顔が映った。画家というより普通の老人。この老人がこの絵を描いたことに、私は驚いた。絵は当然として、それ以上に視力。すごいと思った。顕微鏡で覗いても小さなものが見づらくなってきた私が情けなくなってきた。完成した絵は写真とは違う迫力があり、今にも糞に向かって歩き出しそうであった。しかし、この画家は



▲糞虫の王者ダイコクコガネ

これらの絵すべてがまだ納得できないという。「プロにはこだわりがある」この画家の自分の絵に対する執念を感じた。そして、別の絵を取り出した。前

よりさらに大きい。そこに描かれた大きな糞虫。一段と迫力があった。しかし、未完成だという。描きはじめてから25年経つが、まだ納得できないという。そして「まだ、5年はかかる」と画家。小さな糞虫を描いて25年。やはり執念だ。すごい。私は唖然とした。

× × × ×

画面が変わり、別の人が映し出された。口ひげのある見たことのある顔だ。昆虫学者の奥本大三郎博士だった。ファーブル昆虫記を翻訳されたことでも知られている方である。博士はこの中でてくる糞虫のタマオシコガネを知ってから自分自身、昆虫少年になったと話していた。そして、糞虫の姿を見れば誰でも好きになってしまうとも言われた。「自分もその一人だなー」かつて糞虫の虜(とりこ)になり、「糞虫の王者」といわれたダイコクコガネ探しに明け暮れた自分の姿が脳裏に浮かんだ。この画家もその一人で、糞虫のあの独特の姿に魅了されたという。最後に博士は「まあ、この画家は結局大人になれなかったのですね。という私もそうですが」と言っていた。「いや、この二人だけではない。この私自身もそうだし、昔の甲虫マニアはほとんどがこの類だ」そう思った。テレビが終わった。画面に「日本のファーブルと呼ばれた画家。小さな命にそそぐ愛」、画家、熊田千佳慕 93歳とタイトルがでた。「え、あの画家が93歳」まさか。私は驚いたと言うより、またまた唖然とした。

× × × ×

再びレッドの作業にとりかかった。しかし、テレビの残像が脳裏の奥底で見え隠れする。同時にはるか昔、糞虫採りに明け暮れた自分の姿を思い出しては作業を進めた。かつて糞虫は動物の糞さえあればどこでも見られた。特に、牛、馬が放牧されていた牧場にはたくさんいた。その牧場で競って糞虫探しをするマニア。普通に見られる光景であった。しかし、牧場が少なくなり、糞虫も採れなくなった。マニアも少なくなった。私もその一人で今ではわざわざ採りに行くことはない。「これも時の流れか。それにしても糞虫の先は暗いなー」と糞虫が可愛そうになってきた。特に、絶滅危惧Ⅰ類にランク付けされたこの5種の糞虫。絶滅してしまうかもしれない。牛、馬の糞に依存して生きてきたこの糞虫。まさか自分の生活の場がなくなるとは思いもしなかつただろうに。またまた糞虫が可愛そうになってきた。それにしても、糞虫の仕事をしていて、テレビをつけたらそこにも糞虫。偶然。これこそまさに偶然中の偶然だ。しかし、テレビを見たのは途中から。どうせなら最初から見たかったなー。



木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位：円(1m当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1445回 岐阜共販所	すぎ	3m	16・18cm	11,500	12,000	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
			16・18cm	11,500	12,000	
		4m	20・22cm	12,500	13,900	
			24・28cm	13,000	20,300	
			30cm以上	14,000	31,000	
	ひのき	3m	16・18cm	21,500	39,000	
			20cm以上	19,800	70,000	
		4m	16~22cm	20,000	27,000	
			24~28cm	20,500	55,000	
			30cm以上	21,500	82,000	
第1035回 飛騨共販所	すぎ	3m	16・18cm	11,000	—	
			24~28cm	12,000	—	
		30cm以上	14,000	—		
	ひのき	3m	16・18cm	20,000	—	
			11cm以下	8,000	—	
		4m	20~28cm	19,000	—	
			30cm以上	25,000	44,000	
	まつ	4m	24~28cm	10,000	—	
			30cm以上	15,000	28,900	
		3m	24cm以上	15,000	—	
11月11日 ひめこ	4m	24~28cm	15,000	—		
		24cm以上	25,000	—		
	3m	18cm以上	18,000	28,300		
第1333回 東濃共販所	すぎ	3m	16・18cm	11,500	12,000	
			20~28cm	13,200	24,600	
		30cm以上元	15,800	46,000		
	ひのき	3m	13cm以下	7,500	9,000	
			16・18cm	22,000	76,800	
		4m	20~28cm	21,000	78,800	
			30cm以上元	27,600	56,600	
		4m	11cm以下	11,500	14,500	
			20~28cm	22,600	76,000	
	11月10日 まつ	4m	30cm以上元	31,500	126,000	
			16・18cm	33,800	106,000	
		4m	22~28cm梁	7,800	16,500	
			30cm以上元	9,200	24,000	
		さわら	4m	20~28cm	10,000	20,000
30cm以上元	15,000			25,000		
4m	14~20cm		24,000	46,000		
くり	4m	22cm以上	27,500	56,000		

木材市場

価格は横ばいで推移

風邪や新型インフルエンザなどにかからないために体調を整えて、手洗いなど予防を行ないましょう。インフルエンザかなと思ったら早めに医師の診察を受け広めないよう努めましょう。咳やくしゃみの飛沫は、半径1~2m飛び、飛沫感染が心配されます。

【商況】

杉は4m中目を中心に値戻し感も落ち着きつつある。松は、良材及び大径木に人氣があるものの並材は横ばい。パルプ材は引取りが回復気味、ベニヤ材は依然として低調な状態。(岐阜)

松は横ばいで推移、長材が品薄で応札多く買気旺盛。杉も相変わらず荷動きは良い。松、姫子は、全般に横ばい。広葉樹はホウ、ナラに応札多く強気配で推移。(飛騨)

入荷量はやや増加。全般的に横ばいで推移。松は元木良材と大径木に応札も多く買気旺盛、3m特①柱はシステム単価にて安定しているものの、6m長柱材と4m中目はやや伸び悩んだ。杉4m元木、尺上とも買気旺盛で強含み、柱材、中目並材は横ばい。松の出材量は、増加したものの当面買いに終始した市況となった。(東濃)

外材市況 (10月期)

1㎡当り (価格単価：100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	カスケード(良材)	288	米 柾	ヘム(アラスカ産)	216
	コースト(目荒)	234	米ひば	No.3並	353

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

特産市場

特産市況

21年8月(単位：t,円)

区分	市場名	入荷量	キロ単価
生しいたけ	東京	521	837
	名古屋	82	672
	大阪	187	857
	輸入	107	259

出展「特産情報」

製品卸売標準価格 (10月期)

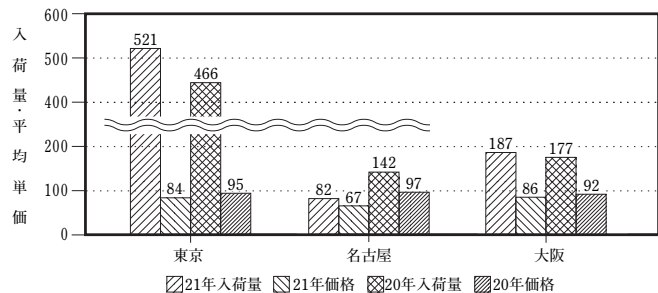
(単位：円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本枚)単価	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	特等	48,000	(1,588)	→
	間柱	3000	105	30	1等	46,000	(435)	→
ヒノキ	土台	4000	120	120	特等	70,000	(4,032)	→
	柱	3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃松)特等	70,000	(3,024)	→
W集ウッド材	柱	3000	105	105	国産5層	46,000	(1,500)	→
		3000	120	120	国産5層	48,000	(2,050)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

8月の生しいたけ市況

単位、入荷量トン・価格円/100g



木材用語一口メモ 一番玉

根元に一番近い所から取った丸太のことで、元玉(もとだま)、元木(もとき)とも言う。以下、先端に近づくと二番玉、三番玉…末玉と言う。直径が大きく、一番玉は節も少ないため、幅広の板や無節の材が取れることが多い。一方、二番玉は、木目がまっすぐ通った材が取れることが多い。

参考：森林・林業木材辞典

●森林・林業関係イベントカレンダー●

開催日	行事名等	内容等	場所・申し込み先
12月15日(火)~ 12月18日(金)	フォークリフト運転技能講習 受講資格 自動車普通運転免許所持者	●講義時間:1日目 8:30~16:30 学科 16:30~17:30 学科試験 2~4日目 8:00~17:30 実技・試験 ●申 込:開催日の10日前まで ●受講料:30,870円(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)	岐阜県立森林文化アカデミー(美濃市曾代88) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 担当:仲井 TEL 058-275-0192 FAX 058-272-3858
1月14日(木)~ 1月15日(金)	木材加工用機械作業 主任者技能講習	●講義時間:14~15日 8:30~17:40 ●申 込:開催日の10日前まで ●受講料:16,800円(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 担当:仲井 TEL 058-275-0192 FAX 058-272-3858
1月28日(木)~ 1月29日(金)	リスクアセスメント 担当者安全教育	●講義時間:28日(林業)9:20~17:30 29日(製造業)9:20~17:30 ●申 込:開催日の10日前まで ●受講料:8,000円(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 担当:仲井 TEL 058-275-0192 FAX 058-272-3858
2月6日(土)	里山をつかう 柴を使った里山の利用体験	●定 員:20名(抽選) ※申し込みは14日前(1月23日(土))までです。	未定(大垣市上石津地内) 森林文化アカデミー事務局管理課 TEL 0575-35-2525
2月8日(月)	刈払機取扱作業者 安全衛生教育	●講義時間:9:20~15:30 学科 15:30~16:30 実技 ●申 込:開催日の10日前まで ●受講料:8,000円(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)	岐阜県立森林文化アカデミー(美濃市曾代88) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 担当:仲井 TEL 058-275-0192 FAX 058-272-3858
2月 9日(火)~ 2月10日(水)	伐木・チェーンソー作業 従事者特別教育	●講義時間:9日 8:30~17:40 学科 10日 8:30~17:30 実技 ●申 込:開催日の10日前まで ●受講料:15,000円(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)	岐阜県立森林文化アカデミー(美濃市曾代88) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 担当:仲井 TEL 058-275-0192 FAX 058-272-3858

平成21年10月の山林協会会議等参加活動報告

年月日	会議等活動内容	開催地等
平成21年10月 4日	第33回全国育樹祭	長崎県 雲仙市
平成21年10月 5日	平成21年度 「林業団体と林業関係県議会議員との懇話会」	岐阜市 水産会館
平成21年10月17日	天皇陛下御即位20年をお祝いする岐阜県民のつどい	岐阜市 岐阜市文化センター他
平成21年10月24~25日	森と木とのふれあいフェア2009	岐阜県庁前芝生広場
平成21年10月29日	平成21年度 「森の名手・名人」認定証伝達式	岐阜県議会議長室
平成21年10月30日	平成21年度 「第3回岐阜県林業構造改善事業推進会議」	岐阜市 ぎふ森林文化センター



『海釣り』への目覚め

今まで川、海を問わず、3回ほどしか「釣り」というものをやったことがなかった自分が、2年前に釣りに誘われ、釣り道具一式を借りて『海釣り』に挑戦をしました。午前3時30分に大垣を出発し、『大きなクーラーボックス』と『大きな期待』を持って、漁場である福井県小浜市へ向かいました。



行きの車のなかでは、諸先輩方から「海釣りとはどういうものか?」、「釣った後の処理はどのようにするのか?」など多くのことを教えてもらいました。船に乗り、釣りをしているときも餌のつけ方などについて指導を受け、釣りを楽しみました。

このときの自分の釣果はマアジ、ウマツラハギ(カワハギの仲間)、小さなレンコダイでした。一緒に行った諸先輩方と比べると非常に見劣りするものでしたが、自分としてはとても満足できる釣果をあげることができたと思っています。

また、帰りの車のなかでは、「ウマツラハギの肝はするな」など釣った魚を美味しく食べる方法について色々教えてもらいました。

家に到着して少しの休憩後、帰りに教えていただいたことを思い出し、睡魔と戦いながら、夜中までかかって魚をさばきました。この結果、次の日から数日間は、自分で釣り、さばいた魚を美味しく食べることができ、とても満足しました。

この楽しかった一日を契機に、必要最小限の道具を揃え、『海釣り』を楽しんでいます。

【『森林のたより』編集委員 下野俊彦】



1月1日発行

1月号
予定

- 年頭あいさつ(山林協会会長)
- 年頭あいさつ(岐阜県知事)
- 年男・年女の想い
- 森・川・海ひだみの流域サミット開催告知
- 森の楽園PR(5)
- 木材安定供給アクションプラン
- 国有財産売却
- 農林業センサスへの協力依頼
- 1棟丸ごと東濃の山の木で建てるイベント
- 日本農林漁業振興会会長賞受賞
- 山の歳時記(53)
- 研究コーナー
- 地域の人コーナー
- 健全で豊かな森林プロジェクト(31)
- 普及コーナー
- 林業グループの紹介
- 森林文化アカデミーの紹介(7)
- 山のおじゃまむし(222)
- 市況情報
- 掲示板

